

会員各位

平成24年12月4日

協会だより240(12月号)

触媒資源化協会

<トピックス>

- 今期最終の第216回月例会（講演会・新年会）の開催日・場所・講師が決定。
開催日：平成25年2月6日（水）15：00より
場 所：JXグループ六本木クラブ
講 師：堺化学工業(株)殿、(株)リガク殿の2件



- 一. 協会よりのお知らせ
【実施済事項】 【予定事項】
- 二. 第二十六回JSCRA会を終えて
- 三. 経産省よりの連絡
- 四. 新会員の紹介（日本フィルコン(株)殿）
- 五. 事務局より（十二月度の予定）
- 六. 【雑学】おくのほそ道ツアーー8ー2

1. 協会よりのお知らせ

【実施済事項】

- ① 協会だよりー239（11月号）をメール&郵便で送信（11／1）
- ② 第216回月例会幹事会
日 時：11月15日（木）14：30～15：15
場 所：堺化学工業(株)東京支店会議室
出席者：担当運営委員（堺化学工業(株)、ミヤマ(株)）、
幹事会社（日興リカ(株)、双日(株)）
- ③ 第4回運営委員会
日 時：11月15日（木）15：30～17：00
場 所：堺化学工業(株)東京支店会議室
議 題：第215回月例会の反省点、第216回月例会の準備

出席者：運営委員、
第215回幹事会社（DOWA メタルマイン(株)、小島化学薬品(株)）
第216回幹事会社（日興リカ(株)、双日(株)）

④ 第26回 JSCRA 会

開催日：11月21日（水）

場 所：千葉カントリークラブ 梅郷ゴルフ場

幹事長：堺化学工業(株)殿、幹事：専務理事

【予定事項】

- ① 平成24年度（1/1～12/31）触媒資源化実績の報告依頼（12／中旬）

2. 第26回 JSCRA会を終えて

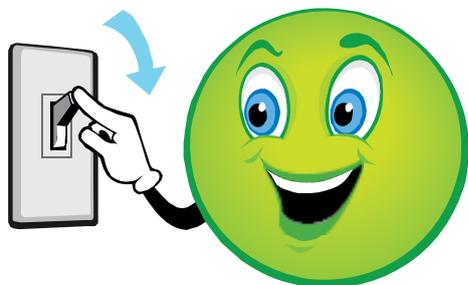
寒波来襲の季節となりましたが、千葉カントリークラブ梅郷ゴルフ場にて16名（4組）参加の第26回 JSCRA会が無事終了いたしました。当日は好天ながらも北風であったこと、難関コースの為もあって皆さんスコアの維持に苦労した後が忍ばれます。

その中数々の難関を潜り抜けた安田薬品(株)の田原新也さんが見事優勝を致しました。次回開催の幹事は優勝の田原新也さんとBBの小林尚道が担当することになりました。コースは未定ですが開催は来春の4月上旬を予定しています。



3. 経産省よりの連絡

11/12【情報共有&周知依頼】今冬の節電及び省エネに関するご協力のお願について



先日の電力需給に関する検討会合・エネルギー・環境会議合同会合において「今冬の電力需給対策について」が決定されたことを受けまして、内閣官房とエネ庁から、今冬の節電及び省エネについて周知依頼が参りました。今冬の節電については、以前ご連絡したとおり、沖縄を除く全電力管内については、12月3日から3月29日の平日について、「数値目標を伴わない」一般的な節電を要請、北海道電力管内については、

北海道の特殊性を考慮し、一般的な節電要請に加え、12月10日から3月8日の平日について、「7%以上」の数値目標付の節電を要請となっております。

4. 新会員の紹介（日本フィルコン㈱殿）

日本フィルコン㈱殿が賛助会員として、11/22 役員会にて入会が承認されましたのでご紹介いたします（敬称略）。12月1日よりの入会となります。

【日本フィルコン株式会社】

代表者：代表取締役社長 渡邊 岳敏

資本金：26億8千558万2千円

従業員：622人（平成23年11月30日現在）

本社所在地：〒206-8577 東京都稲城市大丸2220

TEL 042-377-5711 FAX 042-377-5714

協会担当者：総合研究開発部 新規事業開発部 齊藤 満

主なる事業内容：

1. 紙・パルプ用網及び各種製紙用関連資材・機器の製造、加工ならびに販売
2. フォトファブリケーションその他各種製法による精密加工品の設計、製造、加工、販売および機器の販売
3. 新規事業としてキレート樹脂タイプの吸着剤の開発、販売を推進。

【URL】 <http://www.filcon.co.jp>

5. 事務局より（12月～1月上旬の予定）

曜日	月	火	水	木	金	土
1週	11/26	11/27	11/28	11/29	11/30	1
	×	○	×	○	○	×
2週	3	4	5	6	7	8
	×	○	×	×	○	×
3週	10	11	12	13	14	15
	×	おくのほそ道ツアー⑫（鼠ヶ関～柏崎）			○	×
4週	17	18	19	20	21	22
	×	○	×	×	○	×
5週	24	25	26	27	28	29
	振替休日	○	×	○	○	×
6週	31	1/1	1/2	1/3	1/4	1/5
	冬季休暇（12/29～1/6）					
	1/7	1/8	1/8	1/9	1/10	1/11
	○	○	×	×	○	×

事務局延べ出勤予定：8日（○；終日、△；半日、×は休日）。

6. 【雑学】おくのほそ道8-2

新庄のホテルで一泊した私たちは、芭蕉さんが最上川を清川まで下った乗船地「本合海」に向かいました。最上川は西吾妻連峰を源流とする、延長 229km の山形県一県のみを流れる一級河川です。「本合海」では陶器製の芭蕉主従がお出迎えです。北に向かって流れていた川が湾曲して西に向かって日本海に流れる地点であり、流れも緩やかで船着場としては最適な場所であったのでしょ。ここに建立されている句碑も「五月雨を 集めて早し 最上川」です。



芭蕉主従の陶器像 (本合海)



私たちは最上川の観光舟下り、戸沢村古口の乗船場から草薙温泉リバーポートまでの船下りです。舟は冬季の運行準備でシートをかける骨組み付きの舟と成りました。

この辺りが筆者の乗船位置です

芭蕉さんが下船した清川の小学校跡には芭蕉上陸の地の碑、句碑「五月雨を 集めて早し 最上川」、芭蕉さんの銅像が建立されています。



ここ清川は幕末に新撰組の元となった浪士隊を率いて京に上った清川八郎の出身地といわれています。

その後、私たちのバスは出羽三山の羽黒山に向かいます。羽黒山山頂の駐車場で下車し、三神合祭殿を参拝、境内の巨木の杉並木に囲まれた芭蕉さんの銅像（既に冬囲いの準備がされている）、句碑を見学し、斎館での昼食（精進料理）を頂きました。昼食の後は、出羽三山歴史博物館での出羽三山歴史の勉強です。出羽三山は月山、羽黒山、湯殿山の総称で約 1400 年前、第 32 代崇峻天皇の皇子である蜂子皇子が始祖といわれています。



左は月山、羽黒山、湯殿山の三神合祭殿。中は山頂の杉並木。左は冬囲い準備中の芭蕉像。

頂上の句碑は三山で詠んだ「涼しさや ほの三日月の 羽黒山」、「語られぬ 湯殿にぬらす 袂かな」(実際の碑文は万葉仮名となっています)、「雲の峰 いくつ崩れて 月の山」の三句が刻まれています。勉強が終わった私たちはいよいよ特別天然記念物「羽黒山参道と杉並木」2,446段の石段踏破に挑戦です。



三の坂、二の坂、一の坂の急勾配の下りで太ももがパンパンになり、ダウン寸前でした。三の坂を下ったわき道 500 mほどに南谷別院跡があります。図師左吉(呂丸)に案内され別当天宥に歓待された場所でもあります。

南谷別院は芭蕉さんの訪ねる前に火災にあって再建したばかりの新築であったといわれています。そのため芭蕉さんは大変気に入り挨拶句として「有難や 雪をかほらす 南谷」と詠み、文化15(1818)年建立の歴史のある句碑があります。続いて二の坂の下り口にある茶屋で一休みです。五重塔まで二の坂、一の坂を下らなければなりません。三の坂にも増して急勾配です。石段から足を踏み外さないよう下ばかり見ての歩行はどっと疲れが出てきます。五重塔に着く頃は、もう午後4時も近づいていますが平らになり一安心です。杉木立に囲まれた五重塔は色彩が施されていない無垢の為重厚感が漂って非常に心が和む場所でした。



羽黒山五重塔は平将門の建立といわれ、慶長13(1608)年に最上義光公により修理され今日に至っています。室町初期の遺構といわれています。ここまで下ると祓川の朱塗りの橋を渡り、坂を上っていくと隋神門です。羽黒町観光協会発行の石段踏破認定証をいただき、下りも無事終了となりました。

今日の宿は国民休暇村「羽黒」です。下りてきた場所からバスにて再度、宿舎のある頂上付近まで逆戻りです。なにせ山の中の一軒家、静かなことこの上もありません。温泉の後、豪華な夕食で、後は生ビールで乾杯、グラス地酒と夜は更けてゆきます。明日はいよいよ最終日、月山と湯殿山です。明日の天候は如何かなどと思い描いている内に夢路の中となりました。起きて即また温泉に。夜中より雨が降ったようですが、出発する頃には晴れてきました。

私たちのバスはいよいよ月山八合目に向かいます。途中の道が狭いため、すれ違いに難儀するので今日はバスガイド嬢付です。美人の産地は秋田県、新潟県、石川県と言われて山形県は外されている何故だなどとのバスガイドの冗談話に笑い転がっている内に10時頃八号目の駐車場に付きました。早朝で季節柄一台も観光バスは居らず、私たちが一番のりで天候良し、展望良し月山は秋の紅葉が真っ盛りでした。



月山八合目より庄内平野を望む

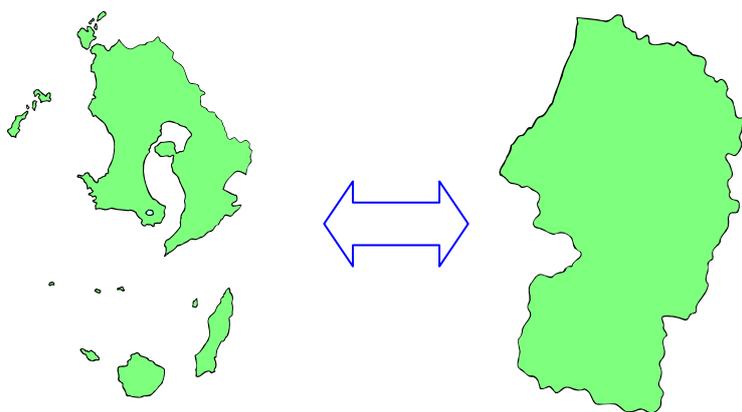


弥陀ヶ原の秋景色(月山)

私たちは、秋の新鮮な空気を味わいながら八合目より月山御田原参籠所(中の宮)まで歩き、萱、湿原が点在する弥陀ヶ原の散策を楽しみました。私たちはここで終わりですが、芭蕉主従は、非常に健脚で羽黒の宿坊から(即ち一合目から)登り月山頂上で一泊し、さらに頂上より奥の湯殿山を参拝して、同じ道を引き返して羽黒の宿坊まで戻ってきています。私たちは月山の頂上を眺めるばかりです。ここよりまたバスで下山して羽黒町まで戻り鶴岡市内で昼食となりました。機会があれば月山頂上の句碑を拝見したいとは思いますが、自分の体重を持ち上げるだけで息切れがする現状では登山は無理かな?ただ今回参加している多くの女性陣は非常に健脚の持久力のある方ばかりです。脱帽です!

※「番外編」昼食の前に+α【松ヶ岡開墾記念館】の見学です。

奥羽越列藩同盟に連なった庄内藩は明治新政府に抵抗した列強でしたが降伏後、西郷隆盛の仲立ちで厳しい処分を免除され転封も免れました。これに感謝した旧庄内藩の人たち



は西郷を慕い、薩摩・庄内の親交が深まったと言われていいます。旧藩主酒井忠篤は旧藩士と共に鹿児島島の西郷さんを訪れ、開墾事業等を学びました。また明治維新後、政府より資金の援助も得て鹿児島で学んだ茶の栽培、蚕糸、紡織等で庄内藩士が拓いたのが松ヶ岡開墾場です。

ここが現在、道の駅的に使われ開拓記念館となっています。会津などは戊辰戦争より140年経った今でも鹿児島とは犬猿の仲と言われていいます。しかしながら奥羽列藩同盟で強力に抵抗した鶴岡市は鹿児島市と今では兄弟都市となっています（歴史勉強の不足で鶴岡を訪ねるまで知りませんでした）。



弥陀ヶ原より月山を望む



弥陀ヶ原の湿原

鶴岡市内の寿司家「芝楽」で寿司の昼食を頂いたあと、今回の最終見学地「湯殿山」に向かいます。昼食中は雷の伴う豪雨となりましたが出発すると晴れ間が現れてきました。



湯殿山の大鳥居

ここ湯殿山の駐車場から先は御本体まで専用のバスの輸送となります。また写真撮影も禁止されています。御本体は上から温泉水が流れる大岩で神社などの建物はありません。私たちはまず裸足になり禰宜より祝詞を受けた後、頂いた紙の人型を側の小川に流します。その後静々と湯の流れる御本体の岩の上へ上ります。この時また雨が降ってきたのですぐに戻らざるを得ませんでした。芭蕉さんの時代も温泉の岩の御本体は同じであったようで「語られぬ湯

殿にぬらす袂かな」と詠んでいます。今回のツアーはこれで終了、一度山形駅より東京へ戻ります。次回は翌月、また山形駅より山形自動車道を通して二泊三日の鶴岡に行き酒田、象潟への旅と続きます。

【文責・専務理事】